

# 「あくとなし」ブランド定着と販売の多角化

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

八千代町は、鬼怒川の肥沃な沖積土「あくと（肥土）」地帯において梨栽培が盛んで、古くから食味のよい梨産地として知られています。県の銘柄産地の指定を受け（平成4年）、また、「あくとなし」の名称で商標登録を取得しました（平成18年）。普及センターでは、JA常総ひかり八千代地区梨部会、八千代町等の関係機関と連携し、「あくとなし」の生産振興、ブランド定着と販売の多角化や、後継者の確保などに積極的に取り組んでいます。

## 安全・安心な梨作り

安全・安心なナシを生産するため、部会員全員のエコファーマー取得を支援し、また、GAP（農業生産工程管理）の導入を推しました。

選果場での帽子と手袋着用による異物混入防止対策の徹底や、選果場、農家の作業場の現地監査を生産者、関係機関で実施し、出荷体制、作業環境の改善を指導しています。



写真2 都内の大手通信会社本社での試食宣伝



写真1 選果場でのGAP現地監査

## 「あくとなし」のブランド化推進

大玉良品生産の技術指導や市場への生育情報提供等を積極的に行い、「あくとなし」のブランド化と、知名度向上を進めました。

生産者、関係機関で連携し、市場、直売所、小売店、企業での試食宣伝、販売などのPR活動を積極的に行っています。地道な活動で、「あくとなし」の品質の高さが徐々に浸透しつつあります。

## 後継者育成に力を入れて

若手生産者の研究部を中心に、先進地事例研修や実証ほの設置等を指導し、新規品目の導入（スモモ等）、省力・多収の新技术（摘心栽培等）、新植・改植技術の取り組みを進めています。

県育成新品種「恵水」の導入、貯蔵性の検討を行った結果、栽培面積の拡大と販売多角化への気運が高まりました。



写真3 県育成新品種「恵水」の導入